

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 08-117024

(43)Date of publication of application : 14.05.1996

(51)Int.Cl.

A45D 40/00

A45D 40/06

(21)Application number : 06-258270

(71)Applicant :

YOSHINO KOGYOSHO CO LTD

(22)Date of filing : 24.10.1994

(72)Inventor :

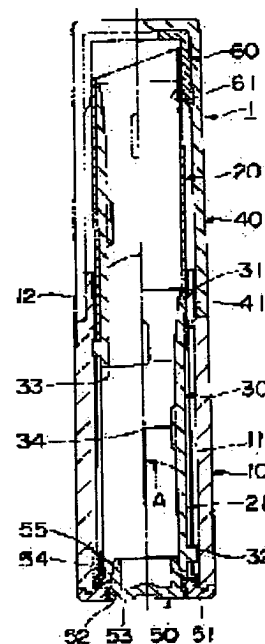
TSUNODA YOSHIYUKI
TAMURA MASARU
KIUCHI TOSHIAKI

(54) EXTENSION CONTAINER OF STICK COSMETICS

(57)Abstract:

PURPOSE: To retain the holder of an extension container of stick cosmetics in the lower limit position and prevent the volatile components from vaporizing out of the stick cosmetics.

CONSTITUTION: A fixing protrusion 32 of the holder 30 is inserted to pierce a long hole 21 of the inner cylinder 20 and fitted in a spiral groove 11 of the outer cylinder 10 to convert the relative rotation of the outer cylinder 10 and the inner cylinder 20 into the linear motion of the holder 30. When the holder 30 is lowered at the lower limit position, the fixing protrusion 33 of holder 30 is fixed to engage with the fixing protrusion 55 of the bottom cover 50 in a sealed state to stop moving up of the holder. A circular seal 31 fitted to the outer peripheral face of the upper end of the holder 30 slides on the inner peripheral face of the inner cylinder 20 so as to seal it. When the cover cylinder 40 is fitted to the outer cylinder 10, the seal member 60 fixed to the top part of the cover cylinder 40 is fitted to seal the outer peripheral face of the upper part of the inner cylinder 20.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

28.06.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

3527293

[Date of registration]

27.02.2004

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-117024

(43) 公開日 平成8年(1996)5月14日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 4 5 D 40/00	M			
	B			
	T			
	U			
40/06	D			

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 7 頁)

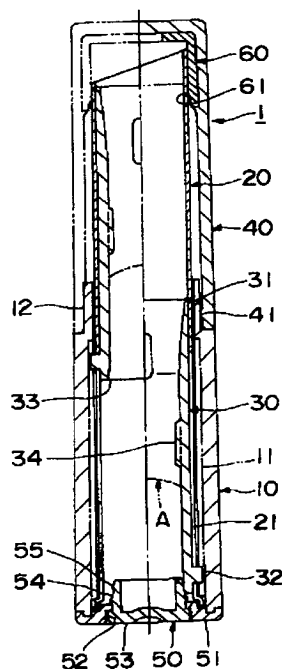
(21) 出願番号	特願平6-258270	(71) 出願人	000006909 株式会社吉野工業所 東京都江東区大島3丁目2番6号
(22) 出願日	平成6年(1994)10月24日	(72) 発明者	角田 義幸 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会 社吉野工業所内
		(72) 発明者	田村 勝 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会 社吉野工業所内
		(72) 発明者	木内 俊明 東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会 社吉野工業所内
		(74) 代理人	弁理士 遠山 勉 (外3名)

(54) 【発明の名称】 棒状化粧料繰出容器

(57) 【要約】

【目的】 棒状化粧料繰出容器のホルダを下限位置に保持できるようにし、又、棒状化粧料から揮発性成分が揮発するのを防止する。

【構成】 ホルダ30の係合突起32を内筒20の長孔21に貫通し、外筒10の螺旋溝11に係合して、外筒10と内筒20との相対回転をホルダ30の直線運動に変換する。ホルダ30を下限位置にした時にホルダ30の係合突部33が底蓋50の係合突部55にシール状態に掛止し、ホルダ30の上昇を阻止する。ホルダ30の上端外周面に設けたシール環部31は内筒20の内周面にシール状態に摺動する。蓋筒40を外筒10に嵌着した時に、蓋筒40の頂部に固定したシール部材60が内筒20の上部外周面にシール状態に嵌合する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (イ) 両端部を開口させた円筒状の外筒と、(ロ) 両端部を開口させた円筒状をなし、先部を前記外筒から突出させて外筒の内部に取り付けられ、外筒に対して軸線方向に移動不能で且つ周方向に回動可能にされた内筒と、(ハ) 両端部を開口させた円筒状をなし、内部に棒状化粧料の基部を収容してこれを保持し、前記内筒の内部に挿入されて内筒に対して軸線方向に移動可能で周方向に回動不能に取り付けられたホルダと、

(ニ) 前記外筒とホルダとの間に設けられ、前記内筒に対する外筒の回転運動を内筒に対するホルダの軸線方向直線運動に変換する変換機構と、(ホ) 前記外筒の基端に固定されて基部側開口を閉塞する底蓋と、(ヘ) 前記外筒に嵌脱可能で嵌着時に前記内筒の露出部を包囲する蓋筒、とを備えた棒状化粧料繰出容器において、前記底蓋とホルダには、ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めた時に互いに係合してホルダの軸線方向移動を阻止する係合部と、互いに圧接してこの両者間をシールするシール部とが設けられ、ホルダの先端外周面には内筒の内周面に圧接してシール状態に摺動するシール環部が設けられ、前記蓋筒の頂部には蓋筒を外筒に嵌着した時に内筒を密閉せしめるシール部材が取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【請求項 2】 請求項 1 に記載の棒状化粧料繰出容器において、前記シール部材が有頂筒状をなし前記蓋筒に回動可能に取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【請求項 3】 請求項 1 に記載の棒状化粧料繰出容器において、前記シール部材が前記蓋筒に固定されており、前記外筒と蓋筒との間には、蓋筒の嵌着時に外筒と蓋筒とを相対回動不能にする廻り止め機構が設けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【請求項 4】 請求項 1 から 3 のいずれかに記載の棒状化粧料繰出容器において、前記変換機構が、前記外筒の内周面に設けられた螺旋溝と、前記内筒に設けられた軸線方向に延びる長孔と、前記ホルダに設けられ前記内筒の長孔を貫通して前記外筒の螺旋溝に係合する係合突起、とから構成されていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は口紅等の棒状化粧料用の繰出容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 この種の繰出容器は、外筒を内筒に対して回転すると、棒状化粧料を保持したホルダが内筒内を昇降して、棒状化粧料が内筒から突没するようになっていて、使用しない時には外筒に蓋筒を装着して内筒を包囲するようにしている。

【0003】 又、揮発性成分を含んだ棒状化粧料の場合

には、内筒の上部開口から揮発性成分が揮発しないように、蓋筒を装着した時に蓋筒と内筒との間をシールするシール機構を設けている。

【0004】 ところで、棒状化粧料を繰出容器にセットする際に、組み立てられた繰出容器の下方からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を流し込んで固化する方法がある。

【0005】 この場合の繰出容器は、外筒の下部が開口しており、内筒及びホルダが上下を開口させた中空円筒状になっている。そして、棒状化粧料を流し込む前に、ホルダを最大限に引っ込めた状態、即ち下限位置にして、内筒の先端に充填用の仮キャップを装着し、繰出容器を倒立して外筒の下部からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を充填し、充填固化後に外筒の下部開口を塞いでいる。

【0006】 一般に、製造段階においては、繰出容器を製造する場所と、その繰出容器に棒状化粧料を充填する場所とが離れていることが多い。

【0007】 そこで、繰出容器の製造元から棒状化粧料を充填する場所へ繰出容器を出荷する時には一般に、棒状化粧料充填時の手間を省くために、ホルダを下限位置にして出荷している。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】 しかしながら、繰出容器の外筒と内筒は自由に相対回転可能な状態になっているので、棒状化粧料を充填するまでの輸送中や取り扱い中に、ホルダが上昇してしまう場合がある。

【0009】 したがって、現実には、棒状化粧料を充填する直前にホルダが下限位置に位置しているか否かを確認し、下限位置に位置していない場合には下限位置に位置するように操作する必要がある、手間が掛かった。

【0010】 又、棒状化粧料を充填固化した後においては、ホルダの下部が開放された構造になっているため、ホルダの下部から棒状化粧料の揮発性成分が揮発するという問題もあった。

【0011】 一方、使用者が繰出容器を携帯する時にホルダが内筒に対して昇降可能になっていると、棒状化粧料の先端が蓋筒の頂部に突き当たるという不具合が生じる。

【0012】 本発明はこのような従来の技術の問題点を鑑みてなされたものであり、外筒の下部から棒状化粧料を充填するようにした構造の棒状化粧料繰出容器において、ホルダを内筒の基部側限界位置において移動不能に保持することができ、且つ、棒状化粧料の揮発を防止できるようにした棒状化粧料繰出容器を提供することを目的とする。

【0013】

【課題を解決するための手段】 本発明は前記課題を解決するために、以下の手段を採用した。

〈本発明の要旨〉

(1) 本発明は、(イ) 両端部を開口させた円筒状の外筒と、(ロ) 両端部を開口させた円筒状をなし、先部を前記外筒から突出させて外筒の内部に取り付けられ、外筒に対して軸線方向に移動不能で且つ周方向に回転可能にされた内筒と、(ハ) 両端部を開口させた円筒状をなし、内部に棒状化粧料の基部を収容してこれを保持し、前記内筒の内部に挿入されて内筒に対して軸線方向に移動可能で周方向に回転不能に取り付けられたホルダと、

(ニ) 前記外筒とホルダとの間に設けられ、前記内筒に対する外筒の回転運動を内筒に対するホルダの軸線方向直線運動に変換する変換機構と、(ホ) 前記外筒の基端に固定されて基部側開口を閉塞する底蓋と、(ヘ) 前記外筒に嵌脱可能で嵌着時に前記内筒の露出部を包囲する蓋筒、とを備えた棒状化粧料繰出容器において、前記底蓋とホルダには、ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めた時に互いに係合してホルダの軸線方向移動を阻止する係合部と、互いに圧接してこの両者間をシールするシール部とが設けられ、ホルダの先端外周面には内筒の内周面に圧接してシール状態に摺動するシール環部が設けられ、前記蓋筒の頂部には蓋筒を外筒に嵌着した時に内筒を密閉せしめるシール部材が取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器である(請求項 1 に対応)。

【0014】前記底蓋は、外筒に対して着脱可能にしてもよいし、棒状化粧料の充填後に外筒に取り外し不能に固定してもよい。

【0015】(2) 又、本発明は、前記(1)に記載の棒状化粧料繰出容器において、前記シール部材が有頂筒状をなし前記蓋筒に回転可能に取り付けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器である(請求項 2 に対応)。

【0016】(3) 又、本発明は、前記(1)に記載の棒状化粧料繰出容器において、前記シール部材が前記蓋筒に固定されており、前記外筒と蓋筒との間には、蓋筒の嵌着時に外筒と蓋筒とを相対回転不能にする廻り止め機構が設けられていることを特徴とする棒状化粧料繰出容器である(請求項 3 に対応)。この場合のシール部材は有頂筒状であってもよいし、環状であってもよい。

【0017】(4) 前記(1)から(3)のいずれかに記載の棒状化粧料繰出容器において、前記変換機構は、前記外筒の内周面に設けられた螺旋溝と、前記内筒に設けられた軸線方向に伸びる長孔と、前記ホルダに設けられ前記内筒の長孔を貫通して前記外筒の螺旋溝に係合する係合突起、とから構成することができる(請求項 4 に対応)。

【0018】

【作用】

〈本発明の作用〉ホルダを前記内筒の基部側限界位置まで引っ込めると、外筒の係合部とホルダの係合部が係合して、ホルダが移動不能になる。この係合力よりも大き

な力を加えない限り、ホルダを内筒の先部側に移動させることはできない。したがって、前記限界位置に位置せしめたホルダは不用意に移動することがない。

【0019】又、係合部が係合する時のクリック感によって、ホルダが前記限界位置に来たことを確認することができる。

【0020】棒状化粧料を繰出容器に充填する場合には、ホルダを前記限界位置にし、内筒の先端を適宜のキャップで閉塞し、外筒から底蓋を取り外しておいて繰出容器を倒立させ、外筒の基部側開口からホルダ及び内筒内に棒状化粧料を流し込む。

【0021】棒状化粧料を充填固化した後においては、ホルダを前記限界位置にして蓋筒を装着すると、棒状化粧料は、内筒とホルダと底蓋とシール部材によって包囲された密閉空間内、あるいはこれらに蓋筒を加えて包囲された密閉空間内に収納されることとなり、棒状化粧料から揮発性成分が揮発することがない。

【0022】

【実施例】以下、本発明の実施例を図 1 から図 13 の図面に基いて説明する。

〈第 1 実施例〉図 1 は本発明の第 1 実施例の棒状化粧料繰出容器の縦断面図であり、図 2 及び図 3 はその要部拡大図である。

【0023】この棒状化粧料繰出容器 1 は揮発性成分を含む棒状化粧料を収納するためのものであり、樹脂製の外筒 10 と、金属製の内筒 20 と、樹脂製のホルダ 30 と、樹脂製の蓋筒 40 と、樹脂製の底蓋 50 とを備えている。

【0024】図 1 において右半分はホルダを最大限に引っ込めて下限位置(基部側限界位置)にした状態を示しており、左半分はホルダを最上位まで上昇させた状態を示している。

【0025】図 4 は外筒 10 の一部を破断して示す正面図、図 5 は同平面図、図 6 は同底面図である。外筒 10 は上下を開口させた略円筒状をなし、その内周面には螺旋溝 11 が形成されている。外筒 10 の上部は蓋筒 40 が嵌合する嵌合筒部 12 になっている。嵌合筒部 12 の外周面は正 12 角形をなし、各面には軸線方向の同一位置にそれぞれ凹部 13 が形成されている。

【0026】外筒 10 の下端部には底蓋 50 が取り付けられており、底蓋 50 によって外筒 10 の下部は気密状態に閉塞されている。底蓋 50 は、外筒 10 の下端に固定された環体部 51 と、この環体部 51 の中央に設けたネジ孔 52 に螺着された中央閉塞部 53 とから構成されている。

【0027】中央閉塞部 53 は上方に起立する円筒部 54 を備え、円筒部 54 の上部外周面には外方に突出する係合突部(係合部及びシール部) 55 が環状に形成されている。

【0028】図 7 は内筒 20 の縦断面図である。内筒 20

0は上下を開口させた円筒状をなし、内筒20の先端を外筒10の先端から突出させて外筒10の内側に挿入されており、外筒10に対して周方向に回転可能で且つ軸線方向に移動不能に取り付けられている。この内筒20において外筒10内に格納された部分には、径方向に対向した位置に軸線方向に延びる一対の長孔21が設けられている。

【0029】図8は右半分を破断して示すホルダ30の正面図であり、図9はホルダ30の平面図である。ホルダ30は上下を開口させた円筒状をなし、ホルダ30の下部外周面には径方向に対向した位置に、外方へ突出する一対の係合突起32が設けられている。

【0030】ホルダ30は、係合突起32を内筒20の長孔21に貫通し外筒10の螺旋溝11に係合させて、内筒20内に挿入されており、内筒20に対して軸線方向に移動可能で且つ周方向に回転不能に取り付けられている。

【0031】この実施例では、外筒10の螺旋溝11と、内筒20の長孔21と、ホルダ30の係合突起32により変換機構が構成されており、外筒10と内筒20を相対回転することによってホルダ30が内筒20内を昇降することとなる。

【0032】ホルダ30の先端外周部は若干大径のシール環部31になっていて、このシール環部31は内筒20の内周面にシール状態に摺動するようになっている（図2参照）。

【0033】ホルダ30の内周面の上部及び中央部には、棒状化粧料の抜け防止用の複数の突起34が形成されており、内周面の下端部には内方に突出する係合突部（係合部及びシール部）33が環状に形成されている。この係合突部33は、ホルダ30を下限位置にした時に底蓋50の係合突部55にシール状態に掛止して、ホルダ30の上昇を阻止するようになっている（図3参照）。即ち、この第1実施例では、係合突部33、55が制動機構とシール機構の両方を兼ねている。

【0034】又、ホルダ30の下縁部は所定の大きさの力が加えられた時に弾性的に拡張できるようになっており、これによって係合突部33は係合突部55を乗り越えることができるようになっている。換言すれば、ある一定の大きさに満たない力では、係合突部33が係合突部55を乗り越えられないように形成されている。

【0035】図10は蓋筒40の縦断面図であり、図11は図10のI-I断面図である。蓋筒40は有頂円筒状をなし、その下部内周面は外筒10の嵌合筒部12に嵌脱可能のように正12角形になっていて、12面のうちの3つの面に、嵌合筒部12の凹部13に係脱可能な突起41が突設されている。

【0036】蓋筒40を外筒10に嵌着すると、内筒20の露出部が蓋筒40内に格納され、外筒10と蓋筒40は多角形同士の係合によって相対回転不能となり、突

起41と凹部13との係合によって蓋筒40は外筒10から抜けなくなる。

【0037】蓋筒40の頂部には樹脂製のシール部材60が固定されている。シール部材60は頂部を開口させた円筒状をなし、下部内周面に内方へ突出する環状突部61が形成されていて、蓋筒40を外筒10に嵌着した時に、環状突部61が内筒20の外周面にシール状態に密接するようになっている。このシール部材60は蓋筒40を射出成形する際に、蓋筒成型用の金型に予めインサートしておき、蓋筒40の成形と同時に固定したものである。

【0038】次に、この繰出容器1の作用を説明する。繰出容器1をその製造場所から棒状化粧料をセットする場所まで輸送する時には、繰出容器1の製造場所においてホルダ30を下限位置に位置せしめて出荷する。このようにすれば、ホルダ30の下限位置ではホルダ30の係合突部33が底蓋50の係合突部55に掛止してホルダ30の上昇移動を阻止するので、輸送中や棒状化粧料セット前の取り扱い中に不用意にホルダ30が上昇することがなく、下限位置を保持することとなる。

【0039】したがって、棒状化粧料をセットする直前にホルダ30を下限位置に移動させる作業は全く不要であり、手間が掛からない。

【0040】又、ホルダ30の引き込み操作の際には、係合突部33が係合突部55を乗り越える時にクリック感があり、これによってホルダ30が下限位置に来たことを確認できる。

【0041】ホルダ30が下限位置にある繰出容器1には、次のようにして棒状化粧料をセットする。即ち、蓋筒40を取り外し、内筒20の先端を適宜の仮キャップで閉塞し、底蓋50の中央閉塞部53を環体部51から取り外して、繰出容器1を倒立する。そして、環体部51のネジ孔52から内筒20及びホルダ30内に液状の棒状化粧料を図1において二点鎖線Aの位置まで充填し、固化せしめる。この後、前記仮キャップを取り外し、中央閉塞部53をネジ孔52に螺着する。

【0042】棒状化粧料をセットした後において、蓋筒40を外筒10に嵌着した時には、蓋筒40のシール部材60が内筒20に密着することとなるが、これと同時に外筒10と蓋筒40とが互いに相対回転不能に係合するので、蓋筒40の閉蓋時に外筒10と内筒20が相対回転することはない。

【0043】したがって、棒状化粧料を内筒20内に引っ込めた状態にして蓋筒40を装着する限りは、棒状化粧料が蓋筒40の頂部に突き当たること（いわゆる、天突き）はない。

【0044】又、ホルダ30を下限位置にして蓋筒40を外筒10に嵌着すると、棒状化粧料は、内筒20とホルダ30と底蓋50とシール部材60と蓋筒40とで包囲された密閉空間に格納されることとなるので、棒状化

粧料から揮発性成分が揮発することはない。

【0045】〈第2実施例〉図12は本発明の第2実施例の棒状化粧料繰出容器の縦断面図であって、図中右半分はホルダを下限位置にした状態を示し、図中左半分はホルダを途中まで上昇させた状態を示している。又、図13は要部を拡大して示す断面図である。以下、第1実施例との相違点について説明する。

【0046】この第2実施例の外筒10の嵌合筒部12の外周面は横断面円形をなして、凹部13はない。又、蓋筒40の下部内周面も横断面円形をなして、突部41はない。したがって、外筒10と蓋筒40とは嵌合状態においても力を加えれば相対回転可能になっている。

【0047】第1実施例のシール部材60は頂部が開口していて、蓋筒40の頂部に固定されていたが、第2実施例のシール部材60は頂部が閉塞されていて、蓋筒40に回転可能に取り付けられている。蓋筒40の内周面に設けた掛止環部42はシール部材60の脱落を阻止している。蓋筒40を外筒10に嵌着した時にシール部材60の環状突部61が内筒20の外周面にシール状態に密接する点は、第1実施例と同じである。

【0048】この第2実施例の場合には、前述したように蓋筒40を外筒10に嵌着した状態でも蓋筒40を外筒10に対して回転することができるが、シール部材60は蓋筒40に回転自在になっているので、嵌着された蓋筒40を回転しても内筒20が外筒10に対して相対回転することはない。したがって、この第2実施例の場合にも、棒状化粧料を内筒20内に引っ込めた状態にして蓋筒40を装着する限りは、棒状化粧料が蓋筒40の頂部に突き当たること（いわゆる、天突き）はない。

【0049】第1実施例の場合にはホルダ30の下部内周面に係合突部33が形成されていたが、第2実施例の場合にはホルダ30の下部外周面に外方へ突出する係合突部（係合部）35が環状に形成されている。

【0050】又、この第2実施例では、底蓋50の環体部51に上方に起立する円筒部56が設けられ、この円筒部56の上部内周面に内方へ突出する係合突部（係合部）57が環状に形成されている。そして、ホルダ30を下限位置にした時に、この係合突部57にホルダ30の係合突部35が掛止して、ホルダ30の上昇を阻止するようになっている（図13参照）。

【0051】この第2実施例の場合、ホルダ30の下縁部は所定の大きさの力が加えられた時に弾性的に縮径可能になっており、これによって係合突部35は係合突部57を乗り越えることができるようになっている。換言すれば、ある一定の大きさに満たない力では、係合突部35が係合突部57を乗り越えられないように形成されている。

【0052】第2実施例では、底蓋50の中央閉塞部53が有頂筒状に形成されていて、ホルダ30を下げると

ホルダ30内に進入するようになっている。これによって、棒状化粧料の下側に形成される空間を少なくしているのである。

【0053】中央閉塞部53の下部外周面にはシール突部（シール部）58が環状に突設されており、このシール突部58はホルダ30を下限位置にした時にホルダ30の内周面にシール状態に密接するようになっている（図13参照）。

【0054】つまり、第2実施例では、ホルダ30の下限位置での制動は係合突部35、57で行い、ホルダ30と底蓋50の間のシールはシール突部58で行っており、制動機構とシール機構を別にしているのである。

【0055】その他の構成については第1実施例と同様であるので、同一態様部分に同一符号を付して説明を省略する。

【0056】この第2実施例の繰出容器1の使用方法及び作用効果は第1実施例と同様である。即ち、繰出容器1をその製造場所から棒状化粧料をセットする場所まで輸送する時には、繰出容器1の製造場所においてホルダ30を下限位置に位置せしめて出荷する。このようにすれば、ホルダ30を下限位置に保持せしめることができ、棒状化粧料をセットする直前にホルダ30を下限位置に移動させる作業は全く不要となる。

【0057】又、ホルダ30の引き込み操作の際には、係合突部35が係合突部57を乗り越える時にクリック感があり、これによってホルダ30が下限位置に来たことを確認できる。

【0058】棒状化粧料をセットする時には、ホルダ30を下限位置にして繰出容器1を倒立させ、底蓋50のネジ孔52から棒状化粧料を充填する。二点鎖線Aは棒状化粧料の底部を示している。

【0059】又、ホルダ30を下限位置にして蓋筒40を外筒10に嵌着すると、棒状化粧料は、内筒20とホルダ30と底蓋50とシール部材60とで包囲された密閉空間に格納されることとなるので、棒状化粧料から揮発性成分が揮発することはない。

【0060】尚、前述各実施例において、外筒10及び蓋筒40は、AS（アクリロニトリル-スチレン共重合体）、ABS（アクリロニトリル-ブタジエン-スチレン）、PP（ポリプロピレン）等で形成することができ、ホルダ30は、PBT（ポリブチレンテレフタレート）、POM（ポリオキシメチレン）、PE（ポリエチレン）等で形成することができ、シール部材60は、ゴム、PE（ポリエチレン）、酢酸ビニル共重合体等で形成することができる。

【0061】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、ホルダを内筒の基部側限界位置に保持することができ、製造過程においては無駄な作業をなくすることができて便利であり、使用時には棒状化粧料の蓋筒への天突

きを防止することができるという優れた効果が奏される。

【0062】又、ホルダの係合部と底蓋の係合部が係合する時のクリック感によって、ホルダが基部側限界位置にきたことを確認することができるという効果もある。

【0063】更に、ホルダを基部側限界位置にして蓋筒を外筒に装着すると、棒状化粧料は、内筒とホルダと底蓋とシール部材によって包囲された密閉空間内に、あるいはこれらに蓋筒を加えて包囲された密閉空間内に格納されるので、棒状化粧料から揮発性成分が揮発するのを防止することができるという効果もある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の全体縦断面図である。

【図2】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の内筒とホルダとのシール部分の拡大断面図である。

【図3】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の底蓋とホルダとの係合部分の拡大断面図である。

【図4】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の外筒の一部を破断して示す正面図である。

【図5】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の外筒の平面図である。

【図6】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の外筒の底面図である。

【図7】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の内筒の縦断面図である。

【図8】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器のホ*

* ルダの一部を破断して示す正面図である。

【図9】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器のホルダの平面図である。

【図10】本発明の第1実施例の棒状化粧料繰出容器の蓋筒及びシール部材の縦断面図である。

【図11】図10の1-1断面図である。

【図12】本発明の第2実施例の棒状化粧料繰出容器の全体縦断面図である。

【図13】本発明の第2実施例の棒状化粧料繰出容器の底蓋とホルダとの係合部分の拡大断面図である。

【符号の説明】

- 1 棒状化粧料繰出容器
- 10 外筒
- 11 螺旋溝（変換機構）
- 20 内筒
- 21 長孔（変換機構）
- 30 ホルダ
- 31 シール環部
- 32 係合突起（変換機構）
- 33 係合突部（係合部及びシール部）
- 40 蓋筒
- 50 底蓋
- 55 係合突部（係合部及びシール部）
- 57 係合突部（係合部）
- 58 シール突部（シール部）
- 60 シール部材

